



冬休みの反省から

冬休みには大きな事故や事件の報告はありませんでした。児童会でも「冬休みの生活目標」をつくり全校で取り組み、代表委員会で反省をしました。児童の冬休みの振り返りをお伝えします。

<できたことが多かった項目>

- ・マスク着用, 手洗い, うがい (感染症予防)
- ・交通ルール, 不審者, 危険な場所での遊び禁止 (事件・事故防止)
- ・計画的な金銭使用 (経済)

<できなかつたことが多かった項目>

- ・早寝, 早起き, 朝ご飯 (生活リズム)
- ・テレビやゲームの時間制限 (生活リズム)
- ・食後等の歯磨き (むし歯予防・生活リズム)
- ・体力作り・学習・家の仕事・読書 (仕事類)

貴重な収穫。命と経済

命を守ることに直結する感染症予防や事件・事故防止, 学校では現金にふれられない**経済**の部分でしっかりできたことが**大収穫**です。学校でも指導しましたが, ご家庭や地域のみなさんのお声かけが一番の指導です。心から感謝申し上げます。

生活リズムや仕事類は普段から

盆暮れ正月といえますから予想できたことですが, **生活リズム**が乱れ, **仕事類**がなかなかできなかった人が多いようです。小学校時代に生活リズムを確立して, 仕事類が自主的にできるようにしておくことと人生が豊かになり, 一生同じライフスタイルをとり続けることが多いです。**土日を含めて安定した生活リズムと仕事類が持続できると素敵な未来が一段と近づいてきます。**

始業式からの2週間は

<登校と下校>

- ・集団登校をしている班も, 保護者の責任で自治的に登校している人たちも, 徒歩での登校について1列で前後の間隔を空けることがよくできている。
- ・登校班先頭の子がしっかりしていて登校児童の様子が良いとのお話が複数あった。
- ・学区外からの車両登校児童が多い本校だが, 公道での交通事故やトラブルの通報はない。
- ・スクールガードや祖父母をはじめとして, 児童の登下校を見守り, 支えてくださる方が多数いる。

<学校生活>

- ・始業式から落ち着いて学習していて, 学習に取り組む姿勢が昨年に増して良くなっている。
- ・マスク着用や検温, 手指消毒等のコロナ対策ができている。休み時間の三密回避がよくできている。
- ・27日(水)に漢字検定を行ったが, 事前の課題への取り組みや検定の時間の落ち着きが良い。
- ・高学年が自覚を持って様々な活動をしており, 低学年がそれをよく見ている。

来年をうらなう成長が見えました。

全校児童は3学期を快調にはじめ, 順調に成長しています。卒業が近づいてきた6年生の頼りがいが強くなりました。これと相まって, 精神的に成長している5年生の姿があります。更に, これは小規模校だからかもしれませんが, 4年生も大規模校の5年生のように見えるときがあります。もう6年生が安心して附属小を旅立てそうな予感がしています。

このメンバーで過ごす最後の2か月で, これまでの成長が新しい伝統になるように仕上げていきます。

予測外の大雪

1月28日（木）に雪が降りました。お昼ばさみの3時間程度みぞれが降るという予報が当日の朝出て、時間を追うごとに降雪予測の時間が延びました。昼過ぎには7年前の豪雪と同じような大雪となり、わずか1～2時間でふわふわの雪ながら10cmの降雪がありました。そこで、下校手段の確認をとる全校放送を入れました。徒歩下校の1年生2名につき、保護者と連絡を取り、学童受入とお迎えを取り付けました。他の児童は下校手段が確立されており、安心することができました。

本校には学区外や学校から比較的遠くの人家の少ない地域からの自動車送迎の児童も多くいます。こういった非常変災時に、多様な下校方法でも大きなトラブルなく下校できているのは、保護者の皆様の普段からの児童とのコミュニケーションとご指導のおかげだと思っています。本当にありがとうございます。

それでも心配だったこと②

下校時間のまだ降雪中、用務員さんが車でのお迎えの保護者のために除雪作業をしていました。除雪を手伝っている児童が複数いて、お迎え前なのにさすが附属小児童と感動していました。しかし、ほとんどの児童の下校後も彼らは黙々と除雪をしています。

聞いてみると徒歩で帰るとのことです。また雪が降り出すと危険なので、すぐに帰るように話すとすぐ下校しました。お礼も言わずに帰宅させたのですが、雪のことと共に私の脳裏には、東日本大震災で他の方の救助を優先したり、非常放送を最後の最後まで続けた方々の記憶が浮かんでいました。結局、その方々は津波で亡くなり、英雄的に報道されていました。

しかし、命がけはいけません。どんな状況下でも、子どもはまず自分の安全を確保することから他の人へ目を向けるのが当然の順番です。働いてくれた子どもたちには心からの感謝と共に、命を守る話をしようと思っています。

それでも心配だったこと①

大雪の中、国中地域から本校へ会議のために来校される方がいました。去年つけたスタッドレスタイヤなので、雪でも大丈夫とのことでした。

しかし、会議時刻になっても到着しないので心配していると、その方から電話が入りました。「小学校の坂を車が上れない」とのことです。早速坂を下って、道向かいの広場へ誘導しましたが、段差を車が越えられません。タイヤを見てみると、長距離を走るために前輪のタイヤの山が減っていました。谷村に積雪はほとんどないことは市役所に確認してわかっていたので、会議を中止として徐行にて帰るようお願いしました。

安心だと思っていなくても、このように滑ってしまう車もあります。自分は大丈夫でも他の方が危険を抱えることもあります。子どもたちには指導しますが、大人のみなさんも十分お気をつけください。

来年度に向けての登下校

附属小は豊かな自然に恵まれています。今回の雪のように危険にも囲まれています。土砂災害危険区域、野生動物や不審者、少ない人の目、高速車も通る県道などです。学区外からの通学者は、家庭の責任において自家用車等で通学します。学区内は徒歩が多く、集団登校制度を採用しています。しかし全地区ではなく、保護者の責任で学校管理外の登下校をするようになった地区があります。今回の大雪の下校時にも、遊んでしまって家に帰るのが遅くなり、職員が探した当該地区児童がいました。

今年度、登下校トラブルはなく、登下校が良いとお褒めの言葉を沢山いただき、当該地区でも一部は立派に自治的集団登校をしています。また、学区外保護者が善意で自家用車に乗せてくださる場面もあるようですが、乗り切れない児童や万が一の事故等での人間関係悪化も心配です。学区内は学校が安全確保を最優先して集団登校を企画し、学区外は教育委員会からの指示の通り、保護者が自分のお子さんの送迎をするのが良いと考えています。

大雪も豪雨も暴風も増える、温暖化の時代がきています